

名古屋からの手紙

Cartas desde Nagoya

～酷暑と食料品の高騰～

42



田中 敬一

プロフィール

愛知県立大学名誉教授。1954年、大阪生まれ。大阪外大大学院修士課程修了。ラテンアメリカの文学・文化専攻。メキシコ政府給費留学生としてメキシコ国立自治大学に学ぶ。訳書にR・カスデリャノス著「バレン・カナン」(2002年、行路社)、著書に「メキシコルネサンス省察」(2018年、あるむ)。kamemarco@gmail.com

季節が変わり、ほっと一息。皆さまにはいかがお過ごしでしょうか。それにしても今年の夏は凄まじかったですね。(A pesar de todo ha sido horrible el calor de verano de este año.)気象庁(la Agencia Meteorológica)によると、この夏(6～8月)の平均気温は平年を2.36度上回り、過去最高(el record de temperatura)とか。名古屋でも8月31日には41.0度を記録しました。そして連日のように、熱中症警戒アラートが発令されました。(Casi todos los días emitieron la alerta contra golpes de calor)

この酷暑の背景に地球温暖化(el calentamiento global)があることは識者の一致した意見です。またその影響か、今年は北海道の高湿、東北地方や山陰地方の集中豪雨など、日本各地で異常気象(fenómenos meteorológicos anormales)が記録され、激甚災害(catástrofes naturales)が発生しました。

さてこの異常気象は農業や水産業に少なからぬ影響を及ぼしました。夏野菜は高騰し、新米の価格も気にかかるところです。また海外でも昨年よりオリーブ、カカオ豆の生産が激減し、オリーブオイル、チョコレートの価格が高騰しています。こうした背景のもと、日

本の食品会社は値上げに踏み切り(se atrevieron a alzar el precio)、9月に値上げされる食品は1422品目に登ると言われています。もちろん値上げの要因は原料価格の高騰以外に光熱費(gastos de luz y gas)や物流費(gastos de transporte)の上昇など、いくつかあります。

こうした状況に対し、政府はガソリン価格を抑えたり(frenar el precio de la gasolina)、最低賃金を引き上げたり(subir el salario mínimo)して国民生活を助けてきましたが、決して十分とは言えません。地球温暖化の原因、すなわちCO₂ (el bióxido de carbono)を多く排出する石炭・石油といった化石燃料(combustibles fósiles tales como el carbón y el petróleo)に依存しない、新しい体制作りが急がれます。私たち一般市民ひとり一人が社会のあり方を考える時がやって来たと言えるでしょう。



今年の新米の価格は?

花の祭り

"Corpus Christi"

川上ミネ

プロフィール

長久手市出身、ピアニスト、作曲家。ミュンヘン国立音楽大学ピアノ科卒業、マドリッド王立音楽院修了。キューバ国立音楽大学講師を経て、現在は京都とサンチャゴ・デ・コンポステラを拠点に活動中。代表作「モリソーとキッコロ」(愛・地球博/NHK)、「猫のしっぽ、カエルの手」、「やまと尼寺精進日記」(以上NHK Eテレ)、「Four Seasons in Japan」(NHKワールド)ほか。川上ミネのドキュメンタリー特番「音のかたち」(NHK総合、NHKワールド)※スペイン・国版はNHKワールドで現在公開中。現在放送中の「しあわせ気分」のスペイン版(NHK Eテレ)のコーナー「川上ミネのしあわせ探し」に出演中。

ガリシア州ポンテベドラ県の小さな町、ポンテアレアス。夏至の頃、この町はスペインで最も華やかな祭りのひとつ「Corpus Christi(コルプス・クリスティ)」で彩られます。カトリックの聖体祭として、パンとワインがキリストの体と血に変わるという教を讃える日。ミサの後には聖体を掲げた行列が街を練り歩き、中世からの伝統が息づきます。

この祭りを特別にしているのは、通り一面に広がる花の絨毯です。町全体が香りに包まれ、夜を徹して描かれる花の道は、住民総出の大仕事。今年は町役場から「目の不自由な方のために音の道を作りたい」と声をかけていただき、私は花や自然を描いた音楽を提供することになりました。思いがけず、私自身もこの祭りに参加させていただけることになったのです。

夏至の夕暮れ、住民たちは街頭に集まります。チョークで描かれた下絵に沿って花びらを敷き、子どもたちは木の実やコーヒー豆を輪郭に並べます。26の地区がそれぞれ工夫を凝らした模様を描き、拠点には箱いっぱいの花びらと、ワインやタパス、お菓子が並びます。笑い声や歌声が響き、祭りは夜を徹して続していきます。

翌朝、ミサを終えた御輿が教会を出発すると、わずか一晩だけの花の絨毯を踏みしめて進みます。窓からは花びらが舞い降り、町は夢の中のように色彩と香りで満たされます。

私は花に見とれすぎて、自分の音楽のことを忘れてしまっていました。でも、音もまた花びらのように舞い、やがて散っていく——その儚さもまた素敵な響き方なのだと思います。



完成した花の道



ユーカリの実を並べていく子どもたち



アジサイ、ラベンダー、バラ、ミモザなどの花びらで描きます



行列が花絨毯の上を歩くと花の香りがいっそうたちのぼります



窓辺から花びらのシャワーを降らせます



行列が通り過ぎた後、子どもも大人もいつまでも花びらで遊んでいました